

2018年3月期 第2四半期決算概要



日進工具株式会社

2017年10月31日
(証券コード6157)

目次

1. 2018年3月期2Qの業績	P. 3	・・・	第2四半期決算の概要
	P. 4	・・・	営業利益の増加要因
	P. 5	・・・	損益計算書サマリー
	P. 6	・・・	貸借対照表サマリー
	P. 7	・・・	四半期業績推移
<hr/>			
2. 2018年3月期の業績見通し	P.14	・・・	業績見通し
	P.16	・・・	配当予想
<hr/>			
< 参考資料 >	P.18	・・・	過去5年間の業績と 主要データ推移
	P.19	・・・	投資指標
	P.20	・・・	株価推移とバリュエーション
	P.21	・・・	I R 情報サイトのご案内

**2018年3月期
第2四半期の業績**



第2四半期決算の概要

売上高経常利益率は26.5%と高い水準

(百万円)

	2017年3月期 2Q累計	2018年3月期 2Q累計	通期予想	進捗率
売上高	4,421 (+7.7%)	4,687 (+6.0%)	9,240 (+4.7%)	50.7%
営業利益	1,109 (+13.8%)	1,226 (+10.5%)	2,290 (+13.7%)	53.5%
経常利益	1,119 (+11.1%)	1,242 (+11.0%)	2,310 (+14.0%)	53.8%
四半期純利益	751 (+12.1%)	907 (+20.8%)	1,630 (+14.7%)	55.7%

国内の新車販売が11ヶ月連続のプラスとなったほか、輸出も持ち直す動きとなった自動車関連向けが引き続き好調。電子部品・デバイス関連も、新型スマートフォン向けやITサイクルの改善等により順調に推移したことから、超硬小径エンドミルの需要は概ね順調に推移した。

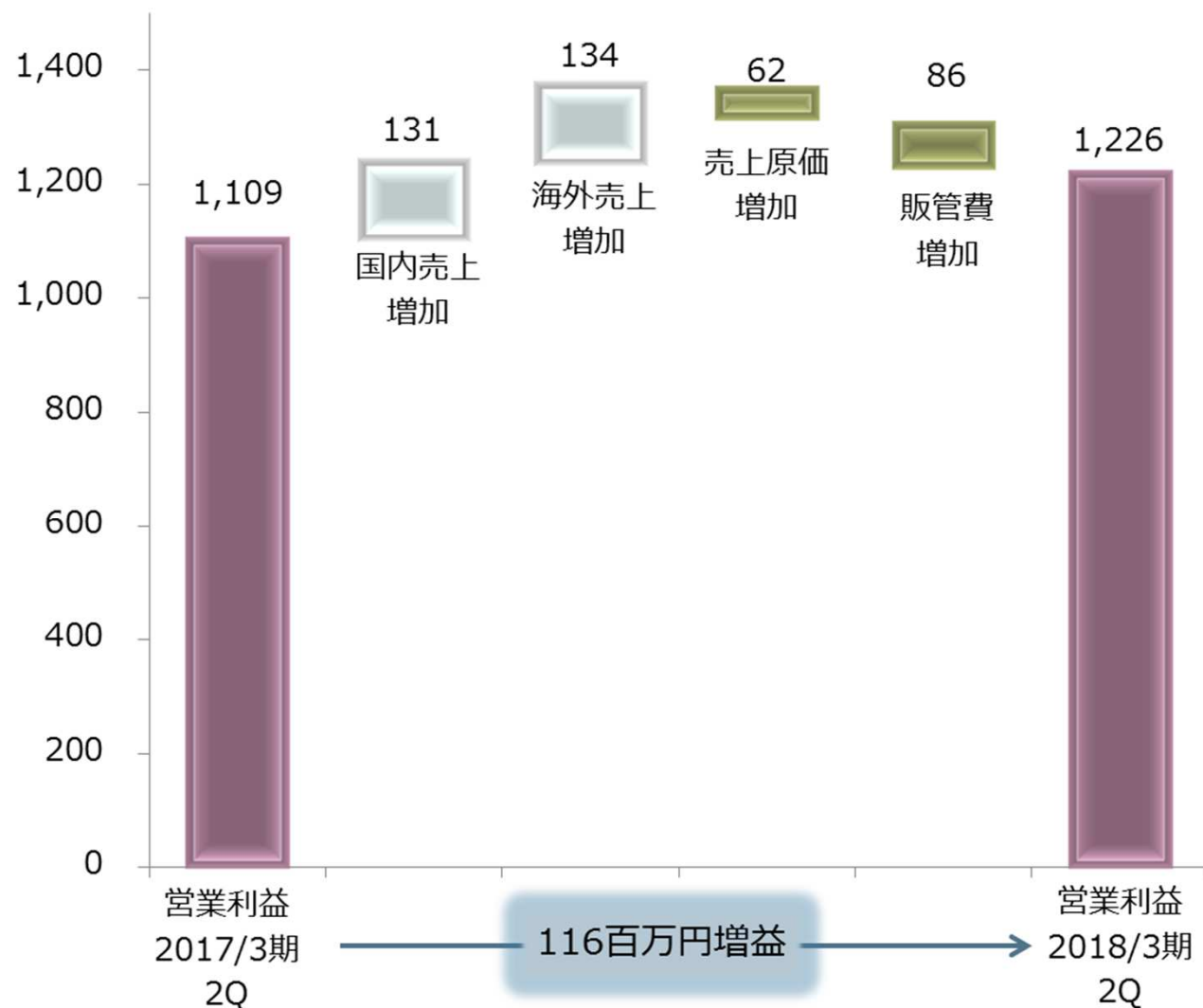
第2四半期累計の連結売上高は、前年同期比6.0%増の4,687百万円、連結経常利益は同11.0%増の1,242百万円。

売上高経常利益率は26.5%となり、前年同期の25.3%から1.2ポイント向上。

()内は前年同期比増減率

営業利益の増加要因

(百万円)



国内売上高は前年同期比131百万円、3.9%のアップ、また海外売上高は同134百万円、12.5%アップとなった。なお売上高全体では265百万円、6.0%の増加であった。

265百万円の売上高増加に対して、売上原価が62百万円、3.2%の増加に止まったため、売上総利益は203百万円、8.3%の増加となった。内訳は売上増に伴う部分が163百万円、原価率の改善等に伴う部分が40百万円。

販管費は86百万円、6.5%増加し、売上高の伸びを上回ったものの、営業利益は116百万円、10.5%増加した。売上高営業利益率は1.1ポイント上昇の26.2%。

損益計算書サマリー

(百万円)

	2017年3月期 2Q累計	2018年3月期 2Q累計	前年同期比	コメント
売上高	4,421	4,687	+6.0%	小径エンドミルはスマートフォンや車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされ順調に推移。
売上総利益 (率)	2,445 (55.3%)	2,648 (56.5%)	+8.3%	海外子会社(日進工具香港)の4-6月の仕入額が1-3月の倍の水準となったことから、原価の連結消去が増え、売上総利益に影響。
販管費 (率)	1,335 (30.2%)	1,421 (30.3%)	+6.5%	ブランディング施策の一環として行った、スポンサーシップ契約や新聞・テレビ広告により増加。
営業利益 (率)	1,109 (25.1%)	1,226 (26.2%)	+10.5%	販管費が増加したものの、売上総利益の増加により営業利益は10.5%増加し、売上高営業利益率も26.2%と1.1ポイント向上。
経常利益 (率)	1,119 (25.3%)	1,242 (26.5%)	+11.0%	営業外損益に大きな変化はなく、経常利益は11.0%の増加。
四半期純利益 (率)	751 (17.0%)	907 (19.4%)	+20.8%	生命保険金受領による特別利益、役員退職慰労金の功労加算金及び賃貸倉庫の減損損失による特別損失を第2四半期において計上。
設備投資額	366	295	-19.4%	今期計画では第3四半期以降での設備導入が多い。
減価償却費	295	301	+2.3%	前年度下期に導入された設備分減価償却費が増加。
従業員数	317人	329人	+3.8%	新卒者に加え、営業や工場での人員強化のため中途採用を実施。

()は売上高に対する比率

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2017年 3月期	構成比	2018年 3月期2Q	構成比	前期比
(資産の部)					
流動資産	7,971	63.7%	8,817	66.5%	+10.6%
現金及び預金	4,659	37.2%	5,431	41.0%	+16.6%
受取手形及び売掛金	1,422	11.4%	1,490	11.2%	+4.8%
棚卸資産	1,592	12.7%	1,618	12.2%	+1.6%
固定資産	4,546	36.3%	4,442	33.5%	-2.3%
有形固定資産	4,047	32.3%	3,968	29.9%	-2.0%
無形固定資産	118	0.9%	150	1.1%	+27.6%
投資その他の資産	380	3.0%	323	2.4%	-15.0%
資産合計	12,517	100.0%	13,260	100.0%	+5.9%
(負債の部)					
流動負債	1,354	10.8%	1,515	11.4%	+11.9%
買掛金	230	1.8%	245	1.9%	+6.9%
固定負債	495	4.0%	491	3.7%	-0.9%
負債合計	1,850	14.8%	2,007	15.1%	+8.5%
(純資産の部)					
純資産合計	10,666	85.2%	11,252	84.9%	+5.5%
負債・純資産合計	12,517	100.0%	13,260	100.0%	+5.9%

流動資産は、保険金受取もあって現預金等が増加したことや、売上げに伴う売掛金の増加等から前年度末比10.6%増加。

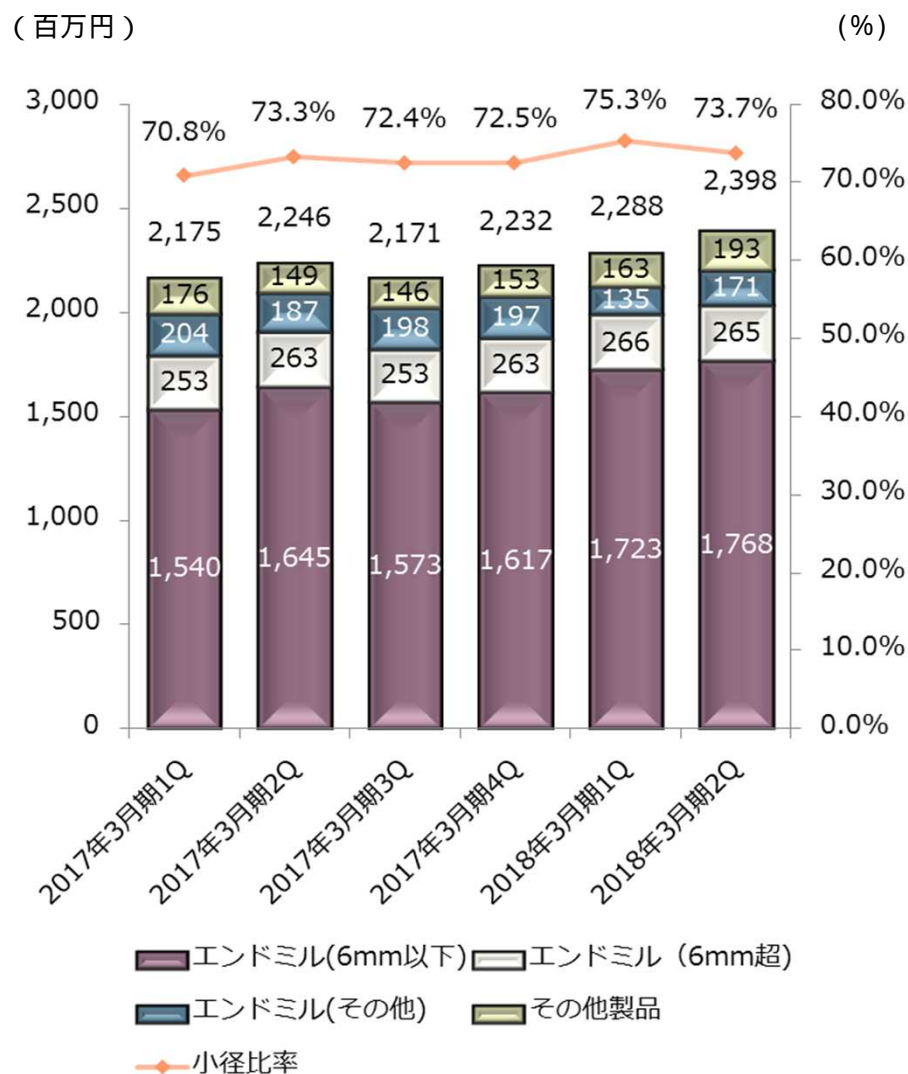
固定資産は、賃貸していた工場隣接地倉庫の減損（64百万円）を行ったこと等から同2.3%減少。

負債は、未払法人税等の増加等により同8.5%増加。

純資産は、利益剰余金の増加等から同5.5%増加、自己資本比率は84.9%となり同0.3ポイント低下。

四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

製品別売上高と小径比率の推移



市況環境は、自動車関連向け、電子部品・デバイス向けを中心に堅調が続いたものの、製造業全般における夏季休業の影響から国内向けは第1四半期に比べやや減少となった。それでも海外向けの伸びにより、四半期売上高としては過去最高を更新。

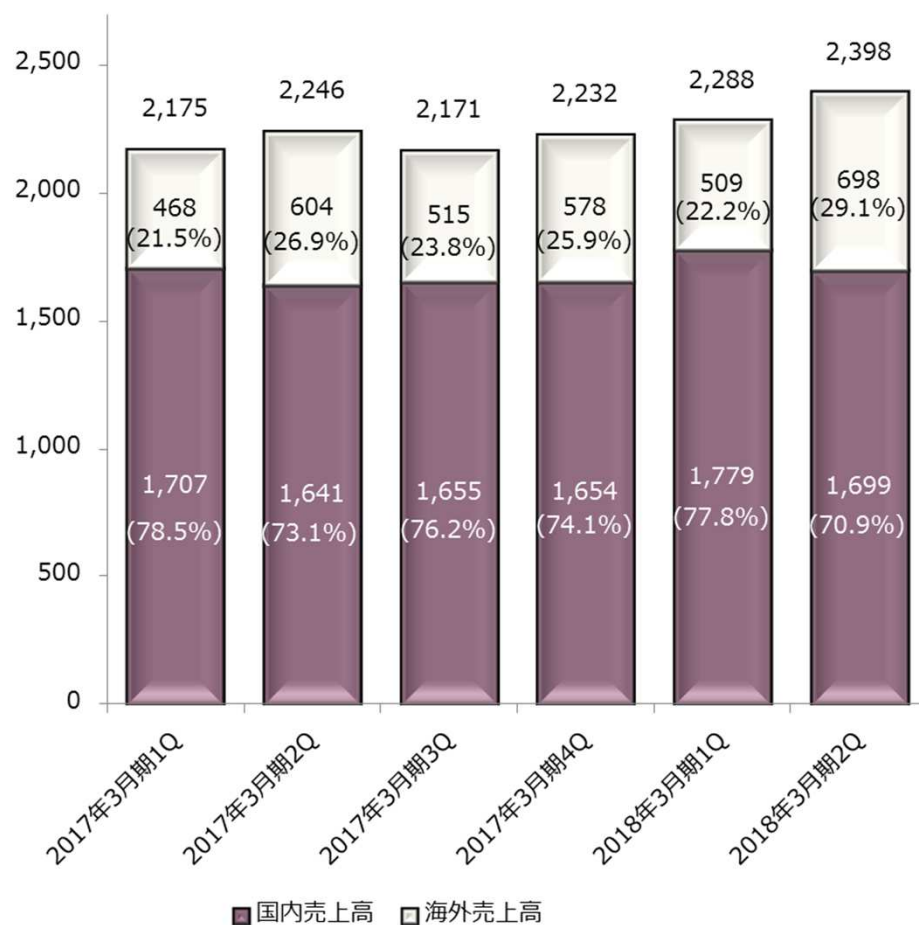
製品別では、その他製品が主力ユーザーとなる工具メーカーの好調により、前年同期比+29.3%、前四半期比+18.5%と大きく増加したが、エンドミル(6mm以下)も前年同期比+7.4%、前四半期比+2.6%と増加した。

この結果、小径比率は73.7%となり、第1四半期に比べ若干低下したものの、高い水準を維持。

四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

国内・海外売上高の推移

（百万円）



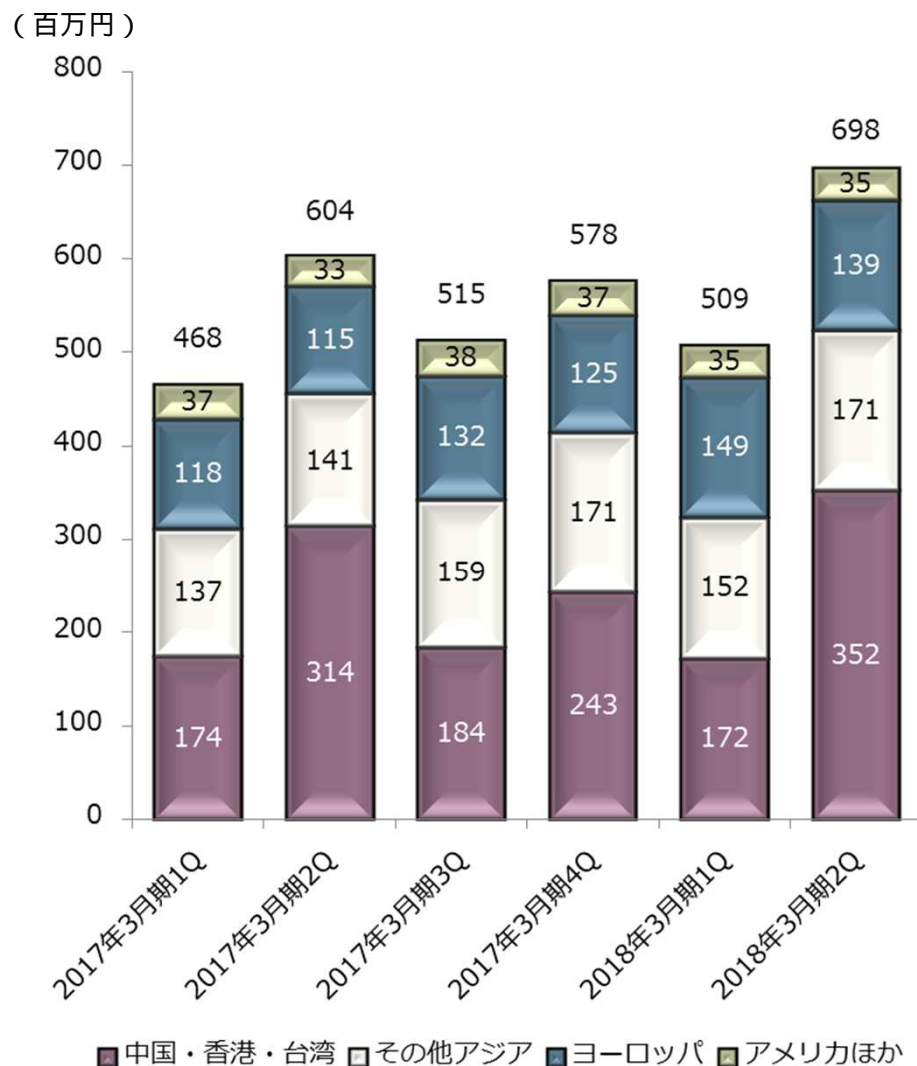
海外売上高は前年同期比15.5%増の698百万円と好調。ただし、最も量の多い中国向けが日進工具香港の取り扱いとなっており、連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生するため、4-6月の水準が高かったことに起因している。

国内売上高は前年同期比3.6%増加の1,699百万円。車載向け電子部品を含む自動車関連の需要に下支えされものの、スマートフォンの新機種向けの一巡や夏季休暇の影響等から、前四半期比では4.5%の減少となった。

スマートフォン関連での中国向けに牽引され、海外売上比率は29.1%と高水準。

四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

海外地域別売上高の推移



海外の地域別売上高では、中国や東南アジアが伸びたものの、ヨーロッパ及びアメリカは伸び悩みとなった。

中国・香港・台湾は、前四半期比+104.5%と倍増したが、前年同期比では+12.1%であった。同地域はスマートフォン向けのウェイトが高く、季節的な変動が大きいことによる。

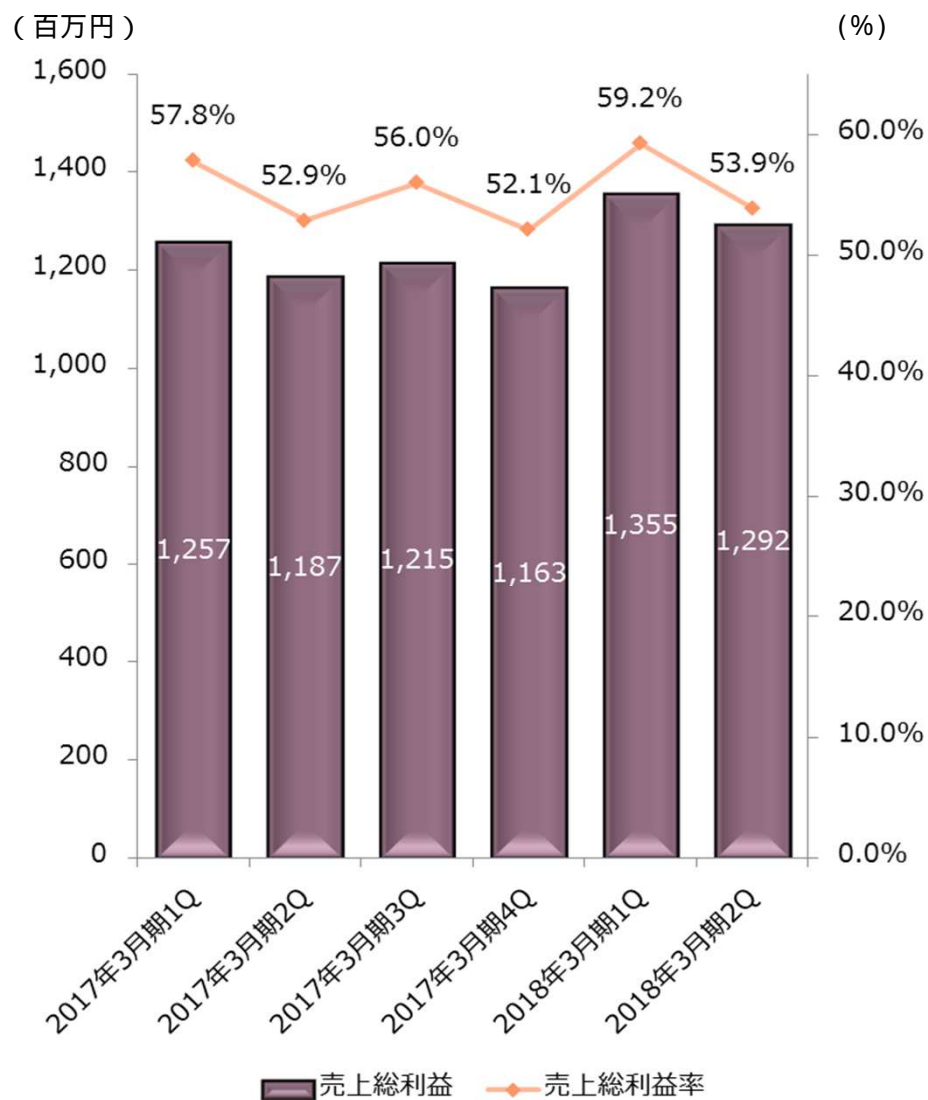
東南アジアは、前年同期比21.0%の増加となった。タイを中心とした自動車関連や家電・精密機器向けがメイン。

ヨーロッパは落ち着いた動きが継続、アメリカほかは絶対量も少なく、低調な推移となっている。

なお、中国向けの販売を行う日進工具香港では、連結に当たり3ヶ月のタイムラグが発生するため、2017年4月～6月の増加が第2四半期に反映されている。

四半期業績推移（売上総利益の推移）

売上総利益と売上総利益率の推移



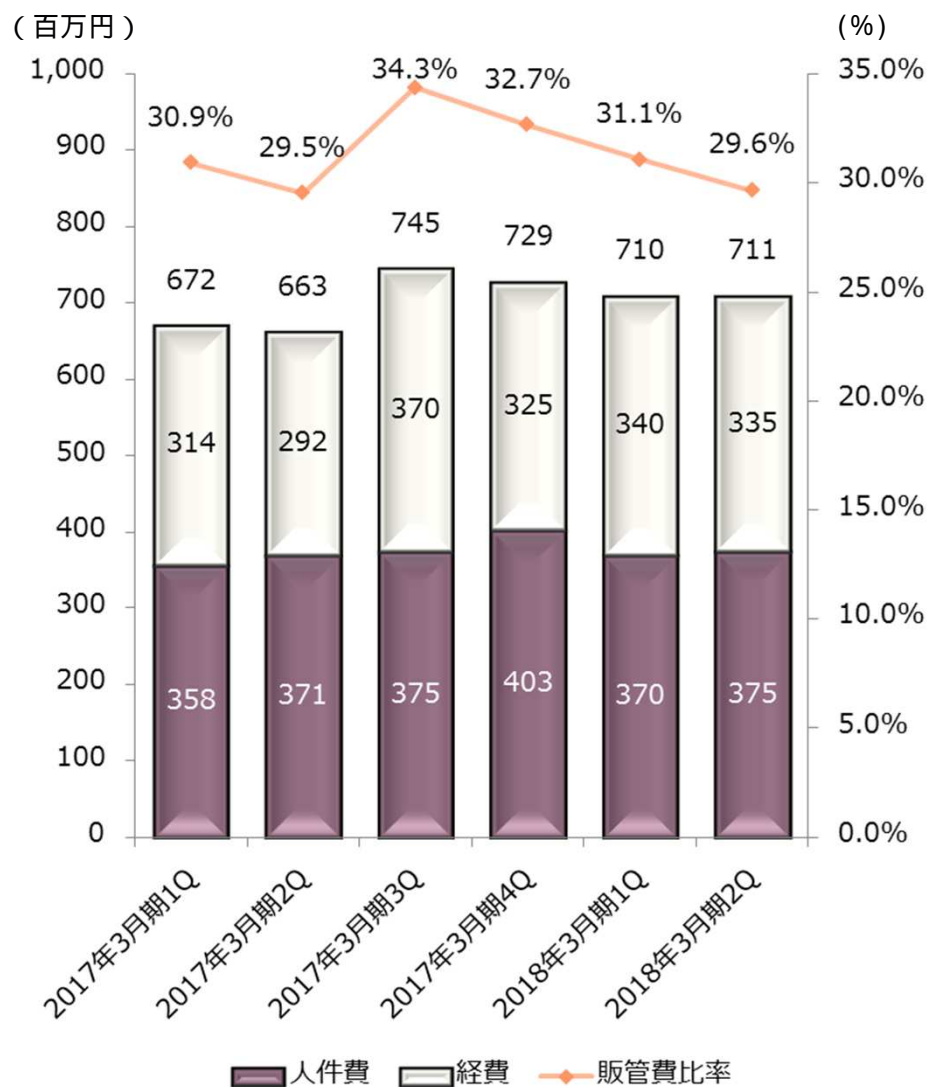
第1四半期が、日進工具香港の連結に伴う特殊要因から原価率が低くなった一方、第2四半期はその反動や夏季休暇による生産減もあって原価率が上昇しやすい傾向にある。

売上総利益は第1四半期に比べ4.7%減少の1,292百万円。売上総利益率も53.9%と5.3ポイント低下した。

それでも、前年同期比では105百万円、8.9%の増加となり、売上総利益率も1.0ポイント向上した。

四半期業績推移（販管費の推移）

販管費と販管費比率の推移



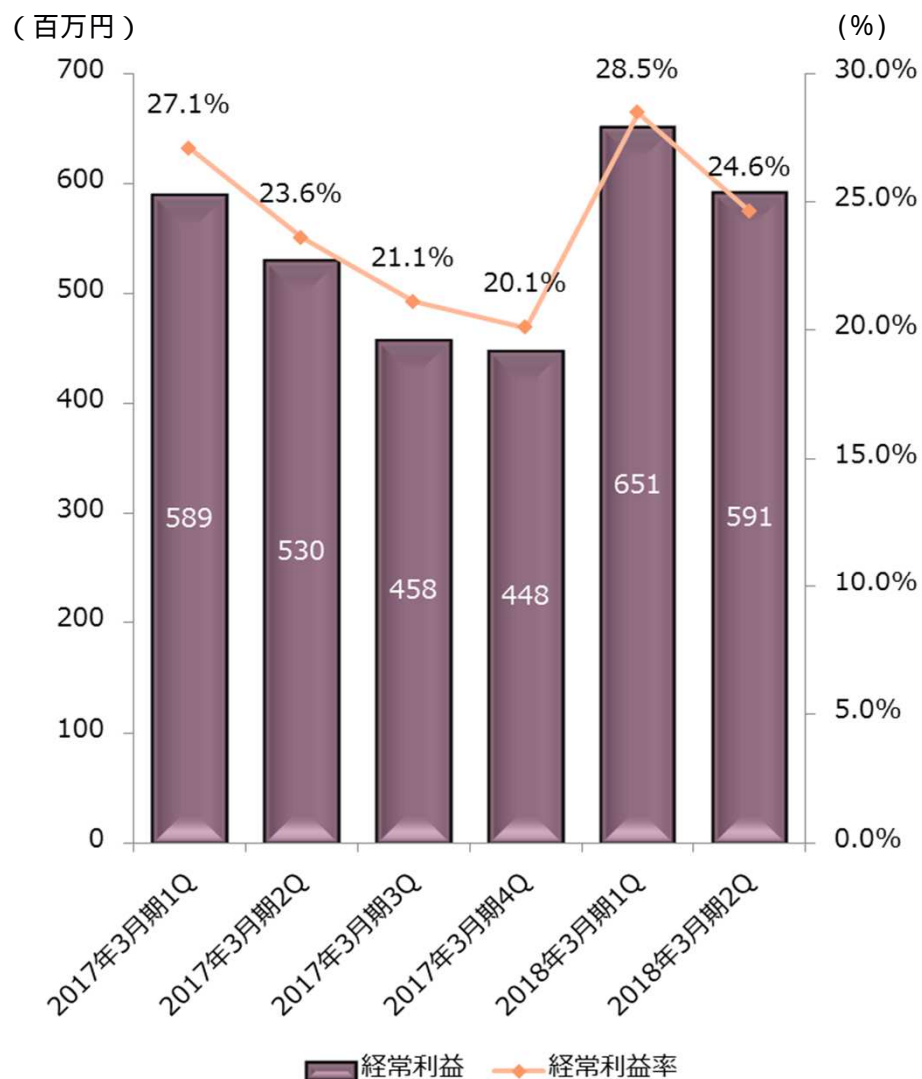
販管費は、第1四半期とほぼ変わらずの711百万円、前年同期比では7.2%の増加となった。

人件費は前年同期及び前四半期に比べ若干の増加。一般経費は前年同期比で14.8%増加したが、これは2年に1度開催されるEMO（欧州での展示会）への出展費用や、東証一部指定に伴う費用（広告宣伝費含む）の影響によるもの。

販管費の金額としては増加したものの、売上高の増加もあって、売上高販管費比率は4四半期ぶりに30.0%を下回った。

四半期業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



経常利益は591百万円となり、前年同期に比べ11.5%増加し、売上高経常利益率も24.6%と1.0ポイント向上した。

なお、第1四半期と比べると、60百万円、9.3%の減少となり、売上高経常利益率も3.9ポイントの低下となる。売上高は4.8%増加したものの、売上原価の上昇が18.5%と大きく、売上総利益が4.7%減少した。（日進工具香港連結による調整が影響し、第1四半期の売上原価が少なかった）

販売管理費は711百万円とほぼ変わらずであったが、売上総利益の減少により、営業利益は同9.9%減の581百万円。経常利益も同9.3%減少し591百万円。

昨年度も第1四半期が最も高くなっており、今年度は各四半期の水準が切り上がっている。

2018年3月期の業績見通し



業績見通し

(百万円)

	2017年3月期 実績	2018年3月期 予想	前期比	コメント
売上高	8,825	9,240	+4.7%	世界的な景気回復傾向が続く中、自動車関連や電子部品・デバイス関連向け需要により底堅い展開が続くと予想。
営業利益	2,013	2,290	+13.7%	売上高の増加に加え、前年度に比べ展示会やカタログ関連の費用が減少する見込み。
経常利益	2,026	2,310	+14.0%	同上
当期純利益	1,420	1,630	+14.7%	同上
設備投資額	774	713	-7.9%	主に生産機械設備の導入によるもの。今期は特別な設備投資の予定はない。
減価償却費	632	619	-2.1%	ほぼ例年通りの設備投資の水準となるため、減価償却費は横ばいの水準を想定。
EPS	113.63円	130.36円	+14.7%	
1株当り配当金	40円	45円	12.5%	株主還元強化の一環として、東証一部指定の記念配当を実施予定(1株当たり5円)。

2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

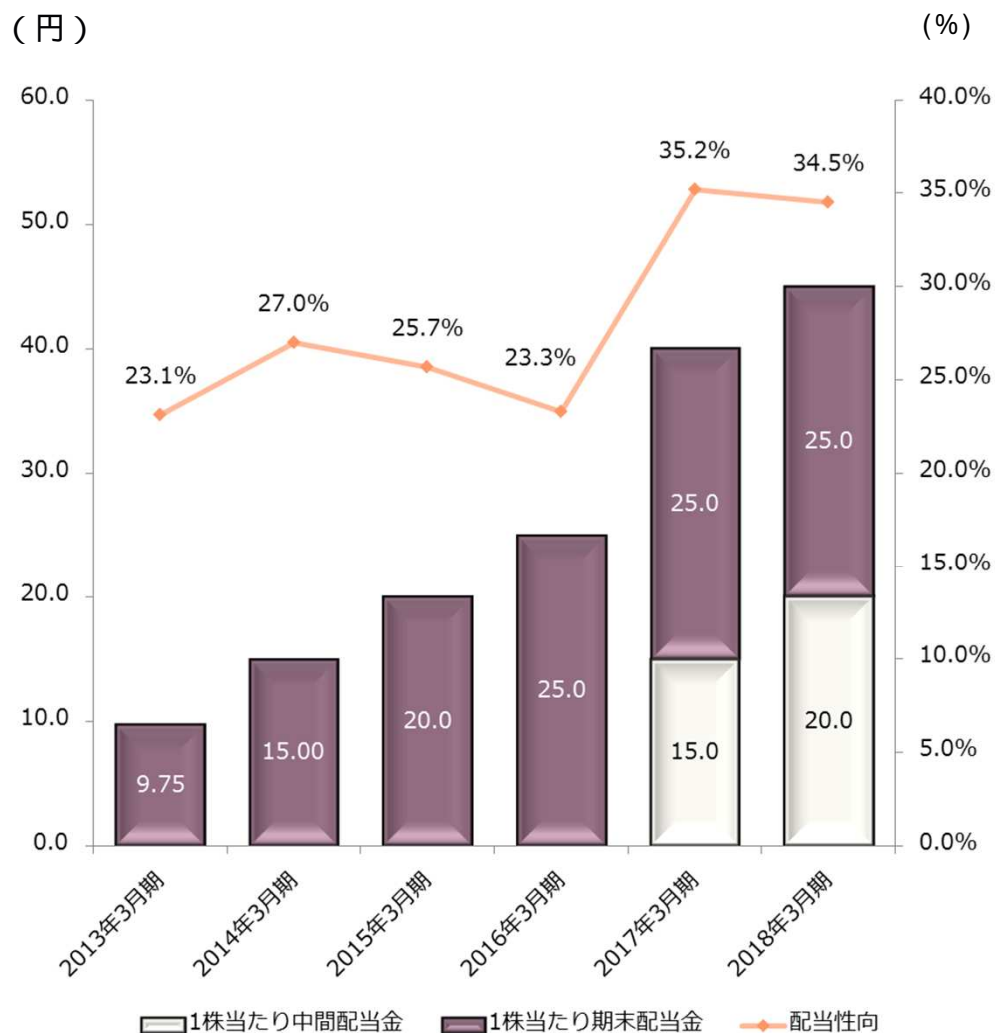
業績見通し

(百万円)

	上期実績	売上比	下期予想	売上比	通期予想	売上比
売上高	4,687 (+6.0%)	-	4,552 (+3.4%)	-	9,240 (+4.7%)	-
営業利益	1,226 (+10.5%)	26.2%	1,063 (+17.7%)	23.4%	2,290 (+13.7%)	24.8%
経常利益	1,242 (+11.0%)	26.5%	1,067 (+17.8%)	23.5%	2,310 (+14.0%)	25.0%
当期純利益	907 (+20.8%)	19.4%	722 (+8.0%)	15.9%	1,630 (+14.7%)	17.6%

()内は前年同期比増減率

配当予想（株主還元について）



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

業績に応じた利益還元

- 2017年3月期の1株当たり年間配当金は40円
中間配当は15円
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
2016年12月支払の中間配当金についても2017年1月1日付の株式分割の影響を考慮しています。
- 2017年3月31日より株主優待を実施
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1单元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈
- 2018年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定
中間配当は20円
期末配当は25円（普通配当20円、記念配当5円）
業績予想に対する配当性向は34.5%

自社株買いではなく
配当にウェイトを置く方針

< 参考資料 >



過去5年間の業績と主要データ推移

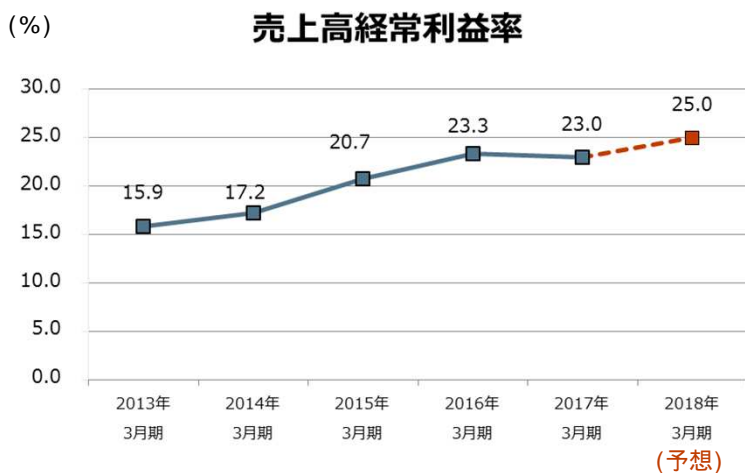
(百万円)

	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
売上高	5,997	6,418	7,402	8,382	8,825
営業利益(率)	921 (15.4%)	1,069 (16.7%)	1,481 (20.0%)	1,914 (22.8%)	2,013 (22.8%)
経常利益(率)	951 (15.9%)	1,107 (17.2%)	1,534 (20.7%)	1,954 (23.3%)	2,026 (23.0%)
当期純利益(率)	527 (8.8%)	694 (10.8%)	973 (13.1%)	1,342 (16.0%)	1,420 (16.1%)
有利子負債額					
純資産額	7,106	7,680	8,480	9,569	10,666
総資産額	8,297	9,075	10,339	11,371	12,517
自己資本比率	85.6%	84.6%	82.0%	84.2%	85.2%
設備投資額	1,001	469	612	1,295	774
減価償却費	563	534	474	505	632
1株当たり配当金	9.75円	15円	20円	25円	40円
従業員数	281人	284人	281人	280人	322人

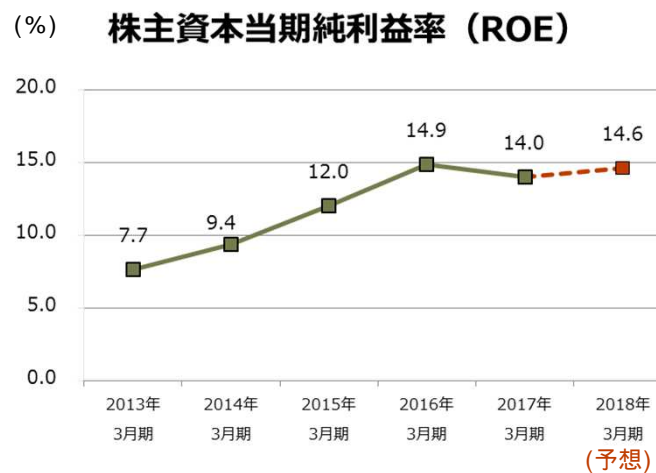
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

投資指標

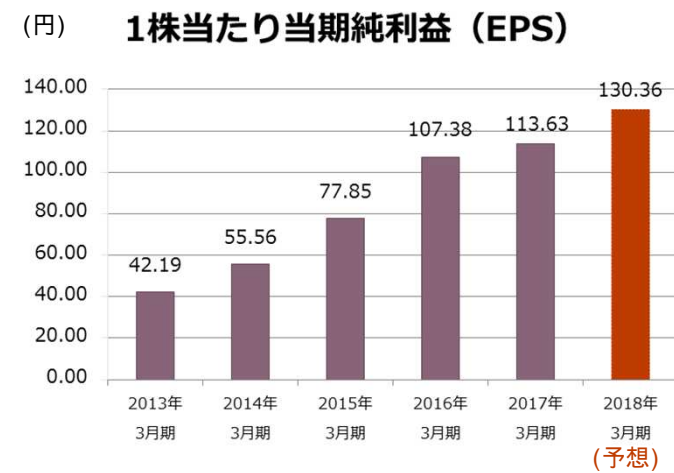
売上高経常利益率



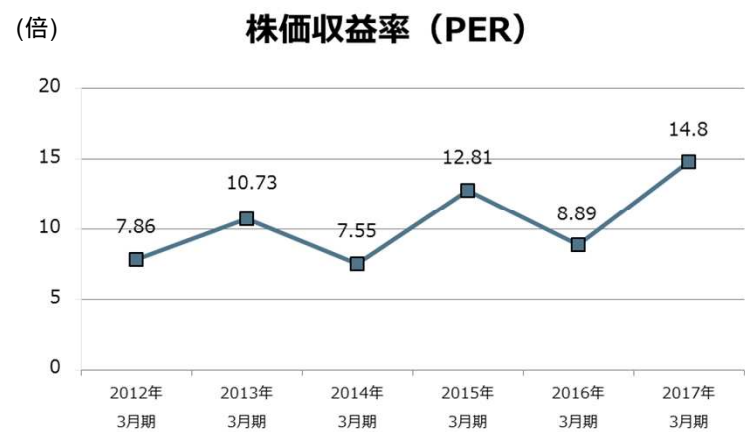
株主資本当期純利益率 (ROE)



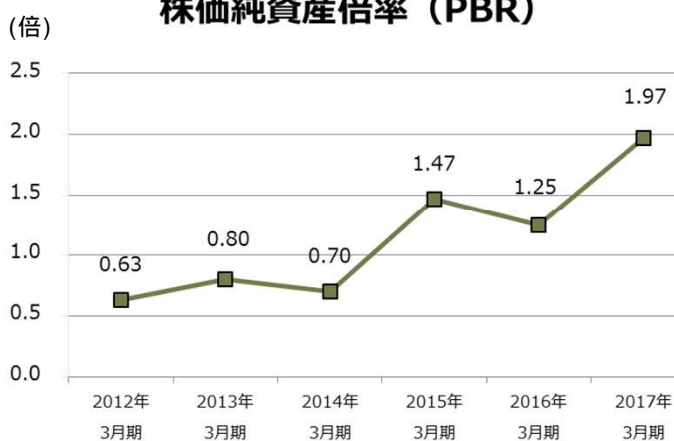
1株当たり当期純利益 (EPS)



株価収益率 (PER)



株価純資産倍率 (PBR)

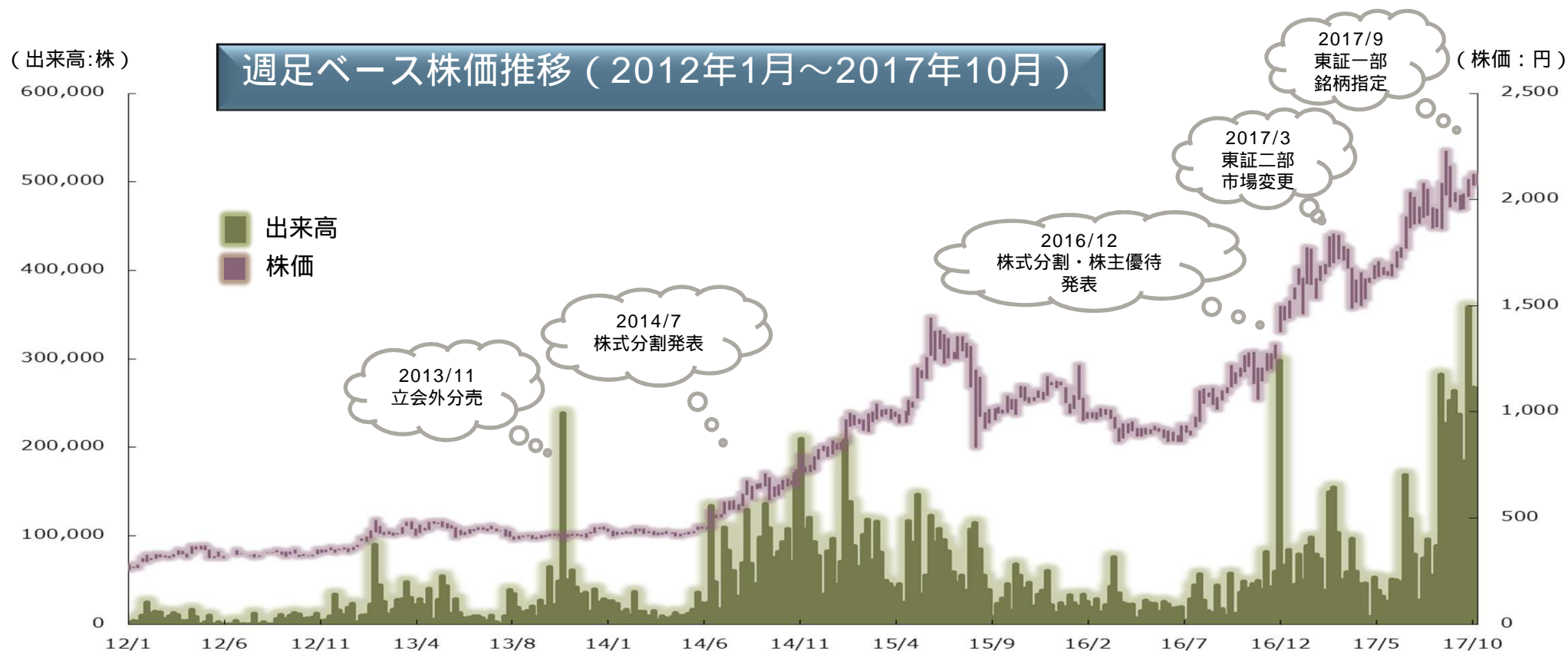


時価総額 (3月末時点)



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

バリュエーション (2017年10月26日現在)

売買単位：100株

時価総額：273億円

ROE (17/3期実績)：14.0%

単元株価格：21万8,900円

PER (18/3期予想)：16.79倍

PBR (17/3期実績)：2.57倍

IR情報サイトのご案内

IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます
現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます

URL : <http://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員管理部長	田島 寛
管理部経理課課長	今関 弘毅
管理部 I R 担当	松尾 友紀子

TEL	:	03-3763-5672
FAX	:	03-3764-8225
E-mail	:	ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。